



「リテラシー」

キリスト教センター長 ミカエル 藤倉 哲哉

ここしばらく「リテラシー」に注目が集まるようになり、情報リテラシー、ITリテラシー、メディアリテラシーはじめ、金融や環境などの分野でも「リテラシー」が使われています。本学でも情報リテラシーが講義で開設されており、生成AIを利用する際の注意についても配信がありました。

本来、「リテラシー」とは読み書き読解の能力を指し、文字の情報を正しく読み取り、理解・分析して記述・表現する能力のことです。かつては狭義に「識字」とされていましたが、作法を含めた手順、物事のやり方、進め方を言い、「読み書き表現」は広くコミュニケーションを意味します。最近では、相手が何を伝えようとしているのか、文字に記さなくてもその発信がどう拡がって影響を与えるのか、言葉だけでない画像や映像も含めてリテラシーの対象になっています。コンピュータやインターネットは誰でもが使うので、このようなリテラシーを学ぶことが必要なことも理解しておかなければなりません。

ところで、最近になって「宗教リテラシー」という言葉も聞くようになりました。宗教リテラシーとは何でしょう。宗教に関する知識や技術という点、宗教家や神学者でなければ必要ないように思えますが、リテラシーでいう知識を理解、技術を接し方と捉えれば、身近に置き換えることができるかも知れません。リテラシーは物事のやり方のことですが、ある種の「作法」とも言え、こう考えると日常生活のマナー、テーブルマナーなど周囲の誰かに迷惑をかけ不快な思いをさせないための立居振る舞いにあたります。

宗教は信じる信じないを含め、人によって関わりが異なりますが、信仰する（しない）人の人生そのものでもあります。もし宗教や信仰について否定されると、その人の人格を否定するだけでなく、その宗教を信じる他の人をも否定し、さらには多くの人がその宗教を信じる国に対して宣戦布告することになるほど重要な問題です。また、信仰を拠り所としている人の財産を掠め取ったり、正義の戦いを掲げて命を奪ったりするようなことは絶対にあってはなりません。



宗教は、いかなる人に対しても人権を尊重し、他人を慮るなど、みんなの平和や幸せを祈り、実現するために働くもので、どの宗教でもこの点は同じです。ときどき宗教は怖い、宗教に頼る人間は弱いというのを聞くことがありますが、一纏めにして邪教や悪魔の宗教と決めつけ、宗教を信じるヤツは…と攻撃してはなりません。知らない宗教、自分の信仰とは異なる世界や文化に対しても敬意をもって接する、謙虚に学ぶという姿勢、リテラシーを身に付けることが必要です。

結局は相手を大切に思い、真理を求めて勉強するということが、リテラシーとは、知識や技術だけでなく、心の問題でもある…と言えそうですが、みなさんはどう考えますか。

一口メモ 「初めにことばがあった」 (ヨハネによる福音書 1章1節)

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」

有名な聖書の一節で「初めにことばありき」という表現を聞いたことがあるかも知れません。では、神の初めのことばは何だったのでしょうか。それは旧約聖書創世記の天地創造にあるとおり「光あれ」です。

